牧師のコラム

『プロパガンダの法則』

仁井田義政　牧師

一年以上前に購入した本であるが、読む機会もなく忘れ去られていた本がある。それは「戦争プロパガンダの法則」(アンヌ・モレリ著)である。毎年八月は終戦記念日に因んで、テレビなどで第二次世界大戦の終結と、日本の敗戦の番組が毎日のように取り上げられている。私はその中でこの本の存在をふと思い出して、読んでみたくなった。しかし探したが見つからない。ついに牧師室の本棚から家内が見つけ出してくれて、読むことが出来た。わけても今、ロシヤの侵略によって、ウクライナとの戦争が行なわれている。その戦争の中でも、マスコミと結託して情報操作(プロパガンダ)が行なわれている。

プロパガンダ(*propaganda*)とは、特定の思想によって、個人や集団に影響を与え、その行動を意図した方向へ仕向けようとする宣伝活動の総称である。この本の著者のアンヌ・モレリが取り上げている「戦争プロパガンダの法則」は、この人自身が書いたものではなく、イギリスのアサー・ホンソンビー(一八七一～一九四六年)が、「戦時の嘘」という題で書いたものである。それに説明を加えて、アンヌ・モレリが出版したものである。さて、元の本の著者アサー・ポンソンビーは、この本を一九二八年に出版している。つまり今から九十五年も前の、昭和三年に出版しているのである。それは、第二次世界大戦勃発十一年も前のことである。しかしそのように古い本でありながら、その内容は全く色褪せていないのである。

出撃する特攻隊機

終戦記念日の八月は過ぎたが、私達が再び国家と結託したマスコミに騙されることのないように、戦争時に起きやすいプロパガンダの嘘に注意するために、ホンソンビーによる「戦争の嘘」の十の法則を読んでいただきたい。

「戦争の嘘」(プロパガンダ十の法則)

一、「我々は戦争をしたくはない」
二、「しかし敵側が一方的に戦争を望んだ」
三、「敵のリーダーは悪魔のような人間だ」
四、「われわれは領土や覇権のためではなく、偉大な使命の為に戦う」
五、「われわれは意図せざる犠牲を出すことがある。だが敵はわざと残虐行為に及んでいる」
六、「敵は卑劣な兵器や戦略を用いてる」
七、「われわれの受けた被害は小さく、敵に与えた被害は甚大」
八、「芸術家や知識人も正義の戦いを支持している」
九、「われわれの大義は神聖なものである」
十、「この正義に疑問を投げかける者は裏切者である」

百年ほど前の古い時代の「戦争の嘘」プロパガンダ十の法則にもかかわらず、現代の戦争の情報操作にも、何とぴったり当てはまる新しさを持っているではないか。どの戦争も平和のために「やむを得ず開戦に至った」と主張するのである。そして「国家のために戦わないのは悪で、国家に命を捧げていることは善である」という国家と結託したマスコミによって洗脳されてしまうのである。そのため、自分の家から兵隊が出ていないのでは隣近所で肩身が狭いと言って、息子を兵隊に志願させてしまうのである。先の戦争で敗戦が色濃くなってきた頃、若者達を神風特別攻撃隊に仕立てて、敵の艦隊に体当たりさせたのである。それは空だけではなく、海においても小型艇や潜水艇に爆弾を積んで体当たりさせたのである。必ず死ぬ体当たり作戦の特攻隊は、二十歳前後の青年達であった。その少年や青年達を愛国者として祭り上げ、彼らを死に至らしめる残虐な作戦を、国はカモフラージュしたのである。しかもその青年達の乗った人間爆弾の多くは、敵艦に到達することも出来ず、撃ち落されたのである。ついには手なずけたマスコミさえも、国は信用できなくなり、国民を騙すために報道の一本化を進めた。それが「大本営発表」で始まる戦況報告である。その報告内容は、実際は戦争に負け続けているのに、日本軍の大勝利を伝え続けて、国民を戦争へと駆り立てたのである。まさにプロパガンダ、ここに

極まれりである。私達は「戦争の嘘」十の法則を覚えておこう。そうして国がマスコミが戦争へと歩み始めた時には、いち早くそれを察知して、戦争に反対しようではないか。

■堀川寛先生　特別講演会

遠藤なほみ

７月２３日（日）は、広島基督教会（三滝グリーンチャペル）牧師の堀川先生をお迎えして合同礼拝と講演会が行われました。

堀川先生は、公認心理師の資格を持ち、特に発達障害等についての理解が深く、教会・学校・病院等で活躍しておられる方です。数年前に、教区のイベントで堀川先生のお話を聞いた兄弟姉妹が、ぜひ溝の口教会でもお話を聞きたいということで、講演を切望していましたが、コロナ禍で延期になっていました。もしかしたらこのまま聞けないのかなと半ば諦めかけていたのですが、今年に入りコロナも落ち着いてきたということで、遂に実現され大変嬉しく思います。

午前中の合同礼拝では、「発達障害を愛されるイエス様」という題でヨハネ２１章７節からメッセージをしてくださいました。

堀川先生は、発達障害について、事例を交え、わかりやすくお話してくださいました。

◇発達障害の種類（DSM-Ⅴによる）

【自閉症】最も重く支援がなければ
社会生活が難しい

【自閉スペクトラム症（ＡＳＤ）】
社会性の貧困・コミュニケーションの偏り・想像力の乏しさ（こだわり）

【注意欠陥・多動症（ＡＤＨＤ）】
不注意・多動性・衝動性

【限局性学習症（学習障害／ＬＤ）】
特定の学習の習得に著しい困難

今は昔に比べ、発達障害は広く認知されるようになり理解も進んできました。しかしながらまだそれも十分とは言えず子供だけでなく大人でも発達障害に悩んでいる人や、周囲にそういった人がいて困っている人がたくさんいるそうです。

障害はネガティブなイメージを持たれがちですが、堀川先生はそういった特性を持ちながら活躍した偉人や有名人がたくさんいるとも話してくださいました。

中でも私たちに身近な使徒ペテロは、イエス様のことをメシアと呼んだかと思えば直後にイエス様をいさめたり、追い詰められてイエス様のことを否定したり、イエス様を見つけたときに嬉しくて湖に飛び込んだり。この衝動性は堀川先生から見ると十分にＡＤＨＤの特徴だとのことでした。

しかし、聖書の中でペテロはイエス様から愛され、最後にはイエス様の羊を任されて素晴らしい伝道者になりました。イエス様は、その人にどのような特徴があっても、その人を心から愛し、受け入れてくださるということを私たちは知ることができました。

午後には「変な人などおりません」という題で午前中の話をさらに掘り下げた内容のお話でした。

発達障害の特性はみんなが大なり小なり持っているもので「何もない人はない」ということ、そういう自分を受け入れ、また相手を理解し受け入れていくことが私たちに必要だと話してくださいました。最後に、子育てに関することで「子のどこを褒めていいのかわからないときの声掛けは？」という質問に、堀川先生は「ただ、大好き。愛してるよ。と伝えてあげて」と教えてくれました。

イエス様が愛してくれているように、私たちも人を愛していけるようになりたいと改めて思うことができ感謝でした。

■「家族の救い」

桜井 聡

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」（使徒の働き 十六章三十一節）

今年、二〇二三年の六月六日に、父を見舞った。二日に地元の医大病院に入院したとの報せを受け、仕事の都合をつけて病院を訪ねたが、病室のベッドに横たわる父を見て、遠からぬ最期を確信した。まだ会話はできたが、この先、痛み止めのモルヒネ回数が増えると意識が混濁するかもしれない。病室の父の傍らで、看護師から「なるべく早く見取りを行なう病院に転院するか、自宅に戻るか、決めてください。」と告げられ、時間が無いことを覚悟した。どうも治療可能時期は過ぎたらしい。時間が無い。

「もう天国の祖母に会うタイミングだからまた天国で逢いましょう。距離があるからお父さんを看取ることができないと思う。だから、さようなら。」と伝えて父の手を握り、お祈りして上げると、さすがに父も状況を把握したのか、めずらしく泣いていた。

父の母（つまり祖母）はクリスチャンだが、父には厳しい人だったと思う。イエス様もルカの四章二十四節で故郷での伝道の難しさを述べられている。英語のことわざにも「預言者郷里に容れられず」とある。血縁ならではの伝道の難しさが確かにあるかもしれない。父も祖母といがみ合うようなことは無いが、信仰を受け入れない頑なな人だった。もう祖母も亡くなってから十五年になる。

そんな父が、過ぎた飲酒の習慣からか、三年ほど前に肝臓ガンになって手術した。いまは病院で手術してもすぐに退院できる時代で、父は性懲りもなく大酒の習慣を続け、医者もとくに、お酒は関係ないと父に伝えていた。（つまり、医師はこの先の展開を読んでいる。）…だから、帰省すると「お父さんが天国に行けるように祈っているからね」と有無を言わさず伝え、本人はキョトンとして黙っているというチグハグな状況が続いた。

冒頭の聖句が示すように、父が天国に行くには父自身が「主イエスを信じ」る必要がある。早急に退院を迫る病院側と、懇願して抵抗する母とのやりとりを気にしながら、父の救いを祈り続けた。

臨終間際の父を動かすことは不可能と思いながらも、転院先の選定が進められ、介護保険を申請したり、介護士が視察にきたり。看病に加え、いろんな事務的な手続きに母も忙殺されている。何とか父の誕生日の六月二十三日までは病院にいさせてもらうよう頼みこむらしい。

十七日土曜日。二度目の見舞いに行って、前回から衰えがだいぶ進んでいるのを見て、父が来週の誕生日を迎えられるか怪しんだ。皆は二カ月位と言うが信じられない。耳は聞こえてうなずいたりできるが口はきけなかった。帰りがけに、驚いたことに父の方から手を握ってきたので、促された気がして、父に覆い被さってお祈りした。「イエス様、お父さんを助けてください。」

もう猶予が無いことを確信して、その晩に電話で、仁井田牧師に来ていただけるかお願いしてみた。次の日は日曜日だったので、無理矢理なお願いだったが、第二礼拝後に駆けつけてくださるとのこと。ただし、病院がコロナ対策で、家族二名までの面会をしかも十五分しか認めていないのを仁井田先生も気にされていた。確かにそうなのだが、「何とかします。」としか答えようが無かった。

十八日の日曜日。この日も猛烈に暑い。仁井田先生が新幹線で浜松に駆けつけてくださった。駅で合流してそのまま車で病院にお連れした。規則で五時に面会終了なので、時間が気になったが、予想よりも一時間以上も早く来てくださった。

それで、「何とかします。」は通用しなかった。仁井田先生は病院の警備係窓口から先に入ることができず、先生を通路に残したまま、病棟上階のナースステーションに交渉しにひとり向かうことになった。「父ももう間際だから、今日、川崎市からわざわざ牧師が会いに来てくださった。」と何度も何度も頭を下げて面会を願ったが、規則掲示板を指して「規則なので。」と、にべもない。ステーションのスタッフは全員無言で私たちを見ない素振り。助け舟は無い。冷静に、かなり粘った。暑い通路で先生を待たせている。申し訳ない。あまりに規則を持ち出すので、他の看護師の規則破りを皮肉ったら、一瞬たじろいだが、火に油だった。

埒があかず、頭の片側で祈りながら訴えると、最後にその若いナースは「ビデオ通話で祈ってもらいなさい。」と言った。そうか、ＬＩＮＥがある！即座に看護師に断って病室に向かい、母に説明をして母のスマホを借りた。それから仁井田先生に電話をして階を降り、警備員に注意されながらも、通路入り口で仁井田先生に手順を実演してご説明した。やはりここまで来ていただいて良かった！と思った。

急ぎ病室に戻って、父の耳元で祈ってから、仁井田先生の持つ母のスマホにＬＩＮＥした。カメラで父を映し、耳元に自分のスマホを置いて、仁井田先生に話をしていただいた。構内の通信環境のせいで、途中で映像を切って、通話のみに切り替えたが、まだ父の耳は聞こえていて、意識も整っている。「応答する場合は、息子さんの手を強く握って、意思表示する」ように説明いただき、仁井田先生に祈っていただいた。しかし父の手は弱弱しく、果たして握り返せるのか、手を離したらそのまま落ちてしまいそうな様子だった。

「これからイエス様にお会いした時、受け入れてください。」父の耳元から漏れ聞こえる仁井田先生の声。ボリュームを最大にしていたため、父も驚いて少し頭を振って避けた。かまわずにスマホを耳元に戻して、先生に話を続けていただいた。通路入口でスマホ片手に話してくださっている先生の姿がよぎる。その瞬間に、父の手にグッと力が入り、応答があった。その瞬間が忘れられない。父は果たしてイエス様に会ったのだろうか。わたしには分からないが、仁井田先生に、握り返しの応答があったことをお伝えして、涙ながらに父に喜びを告げた。母も一部始終を見ていた。イエス様に出会っ

て、必ず人は変えられる。生き死によりも私たちにとってそれがもっとも大切なことだと痛感した。涙を押さえながら、また階を降りて、先生のところに戻り、急ぎ駅に向かって先生をお見送りした。怒涛の二時間。病院に戻る途中で面会時間終了となり、母も追い出された。

その母の願いが届いたのか、父は一週間後の誕生日を迎え、翌日深夜に天国に召された。転院予定日だったが、最後まで病院にいることが出来、安らかに旅立ったと、看取った兄から聞いた。

いまは主の一切の憐れみに、唯々感謝しています。

■中央聖書神学校後援会より

７月１６日（日）の第二礼拝に、神学校後援会会長の酒井兄が来てくださいました。酒井兄は以前、教会の近くにある下作延小学校の教頭を務めておられ、溝の口教会にも馴染みのある方です。

現在は神学校後援会の会長をされていて、今回は後援会のアピールのため、礼拝にも足を運んでくださいました。

酒井兄から、後援会は中央聖書神学校の側面的財政援助をする機関として１９７７年に設立され、現在もなお物心両面での応援をしていらっしゃることを丁寧に説明していただき、その思いに共感した兄弟姉妹達が後援会の会費として献金を捧げることができました。

＊入会案内より（抜粋）

後援会費はその８０％以上が神学生の奨学金として用いられています。貸与された奨学金は、５年間のAG勤務で返済が免除されます。献身者が経済的な憂いがないよう支援の輪に加わりましょう。

★入会を希望する方・興味のある方は牧師または幸子先生まで。

■「ポレポレ育児日記」

４月１２日に娘の綸(りん)が誕生して、早いもので４か月が過ぎました。毎日バタバタと過ごしていますが、娘の誕生と子育てを振り返りたいと思います。

【誕生】

綾姉は出産予定日を１週間過ぎても陣痛がなかったので、陣痛促進剤等を使うことになり、入院しました。それでもすぐには産まれず、仕事中や自宅、夜中といつでもそわそわしながら２日経った深夜２時３０分過ぎに電話が鳴りました。綾姉から「産まれそう…」と陣痛で辛そうな声で連絡があり、すぐに嵐で強風の中、病院に向かいました。

コロナ禍でしたが短時間の立ち会いは可能で、到着してあっという間の３０分後、午前３：４３に元気な泣き声とともに綸が誕生しました。時折「これでもか」と思うくらい大きな声で泣き、苦しくなさそうですが、泣き続けると血液中の酸素濃度が低くなることを繰り返しました。「心臓？それとも肺に問題があるの

か？」と不安がよぎり、神様に「私の健康の替わりに、どうか綸が護られますように。酸素濃度が正常に戻りますように！」と強く強く何度も祈りました。後に小児科医が診察し、「数日酸素テントの中で様子を見ましょう」ということになり、一日も早く回復することを願いました。

また綾姉も出産時の出血量が多く、状態によっては輸血もあり得ましたが、なんとか持ちこたえることができました。

【命名】

名前は生まれる前から「綸(りん)」に決めていました。きっかけは、綾姉の「綾」の文字は、中国語で「リン」と発音すると友人に言われ、お腹にいる子に「りん」とニックネームで呼びだしたら、それ以外の名前が浮かばなくなったのも一つのきっかけです。また体の性別は女性でも、心の性別が女性でも男性でも違和感のない名前にしました。漢字の意味は「つかさどる、おさめる」の意があるそうです。ちなみに「綸」の中国語読みは「リン」でした。

【退院・自宅へ】

4月18日、母子共に無事に退院し自宅に戻りました。神様が護ってくださったことにただただ感謝の想いでした。

この頃の授乳は3時間毎だったので、初日の夜は授乳や娘の様子が気になり、ほぼほぼ眠れませんでした。また、授乳してもあやしても、何をしても泣き止まないことが何回もありました。夜中のそれは辛く、ひたすらあやしてもどうしようもない時があったのですが、お義母さんが抱くとスッと泣き止むのです。その度に「先輩ママはすごい！」と思いつつ、「自分はまだまだだなぁ」と思ったものでした。「早く泣き止んで～」との思いが伝わっていたのかもしれないと後々思いつつ、ムツゴロウさんのように「よ～しよしよしよし、どうしたの？」の気持ちだと違ったのかもしれません。

そして寝不足の日中、仕事でZoomでの打ち合わせの時などは眠気が強くなり、「は・や・く・終わって…」と願っていたことを思い出します。

5月中旬から1か月ほど綾姉は里帰りし、6月中旬に一回り大きくなった娘を迎えました。その間たくさんの先輩ママから経験を通したアドバイスをもらったのですが、例えば抱き癖はつけないほうが良いという方もいれば、抱きたいだけだいた方が良いという方もいて、「育児に方法論はないなぁ」と改めて思いました。

【育休・育児】

7月から綾姉が仕事を再開するにあたり、私は9月までの3か月間育休を取っています。職場の皆さんの協力にただただ感謝の毎日です。最近は娘の生活リズムや泣くタイミング、理由が分かってきたので、心に余裕をもって対応できるようになりました。

ただ、いや、やはり、自分の時間はなかなか作れないと実感しています。家事と育児の時間が繰り返され、それだけでも一日があっと言う間に過ぎますが、この時代リモートワークが発達したことで、問い合わせもしばしばあり、対応にお腹いっぱいのこともあります。通勤が

ないだけでも楽ですし、娘の成長を長い時間共有できるのはとても幸せなので、なんとか時間を捻出しています。そして、育児を経験する中で「自分の親もこんな気持ちで育ててくれたのかな」と何度も思う日々を過ごしています。

最後に、子を授かることに対し、西山兄から『『授かった』のではなく、『預けられた』と思っている」と経験談を伝えてくださったのが心に残っています。

神様から預けられた命を繋ぐために、ポレポレ(スワヒリ語で「ゆっくり」の意)と皆さんに支えられつつ子育てをしながら、自分も成長していけたらと思います。

９月・１０月のイベント

◇９月１０日（日）敬老食事会
　時間：第二礼拝終了後、移動
　場所：ビストロ　ポップコーン
　　（高津区北見方２－８－１）

◇９月１８日（月）教区聖会
「御霊に満たされて前進しよう」
　時間：第一聖会１０時～、第二聖会１３時～
　場所：中央聖書神学校・オンライン

◇９月２４日（日）聖霊待望会

◇１０月１５日（日）南地区青年合同礼拝

◇１０月１７日（火）婦人部特伝

詳細は週報でご確認ください♪♪

■投稿

『最高の人生を手に入れよう。』

睡眠栄養指導士　中川　彰

人生はゲームです。『最高の人生を手に入れよう。』ゲームを楽しんでいますか？と、聞かれ『ハイ』と答えていますか？神は一人子イエスを私たちに送り備え、あなたを愛し、あなたの罪を彼に負わせ、十字架にかかることを許されました。それは、あなたの人生がどれほど価値のあるものかを、あなたに知らせ最高の人生を手に入れてほしいと思われているからです。既に、探究の旅も3回目を迎え、人生で何が大切なのか、何を大切にしようとすることがあなたの人生を豊かにしてくれるのかをお話ししてきました。その答えはもちろん『睡眠を取る』ことだったと気付かれたと思います。

では、良質な睡眠を取るために最初にする簡単なことは何でしょうか？それは、身の回りの環境整備です。気付くこともなく取り入れている生命維持物質の中で最多は空気です。意識して良質なものを十分に摂取することから始めてください。正直この問題は人類全ての人の問題であり、個人で地球の環境を改善することは簡単に出来るものではありません。しかし身の回りや家の中だけでも、改善する方法があり、出来るのであれば取り入れて欲しいのです。

人は呼吸をしないで、長くは生きられません。成人で1分間に12回～20回、新生児で35回～50回呼吸すると言われており、肺の中で空気に含まれる酸素を体内に取り込んでいます。計算すると成人の平均で、15回呼吸/分×500ml/肺活量×60分×24時間＝21,600回×500mlとなり、ペットボトル2万本以上1日で必要としています。空気を綺麗に保った上で摂取していますか？　喫煙など論外です。

寝る時は、綺麗に掃除された埃の舞っていない部屋に、床より30cm程度高い寝具を用意して寝ていれば完璧です。

次に水です。人間はタンパク質からなる細胞で出来ておりその細胞は60%の水で満たされている事は常識です。その命の水、拘りを持った良質な水分で体内を満たそうとして下さい。

我々の体内から、水分は汗や涙や尿や排便により、1日に2,5リットルが失われています。これは負荷の掛からない日常生活でのことですので、ウォーキングや運動をする方は更に多くなります。何も入っていない真水で1,5リットル、食事やお茶などで1,0リットルは、常日頃から意識して、飲む必要があります。

食事だけでなく、水にもミネラル分を含んだHPも中性の不純物の含まないものを取る習慣にしたい所です。更に老化や疲労を防ぎ免疫力を上げるには、水素イオンがナノバブル状に封じ込められた天然水やミネラルウオーターを摂取できたら完璧と言えるでしょう。

体の水分量を最近では簡単に測れる、体素性計付きの体重計で毎日計測し、60%～70%を目安にするのも良いことだと思います。難しく考えるのでは無く、ゲーム感覚で体に良いことをし、体調管理のレベルを上げ良質な睡眠を取得することで、人生ゲームで勝利しましょう。

次回は、更に人生ゲームを続け楽しみながら高得点を手に入れる方法を、探していきたいと思います。

一緒に出かけましょう。あなたの最高の人生ゲームで勝利するために！

■編集後記

夏休みに実家に帰ったときに、駐車場に野良猫が来ているのを見ました。以前に事故で負ったのか、背中に大きな傷を抱えた小さな小さな黒猫でした。

聞くとその子は地域猫で、近所で野良猫を保護している方達と連携して、うちでもたまにご飯をあげているのでその日も実家の駐車場に来ていたようです。

酷暑が続くこの時期に、痛々しい傷を負いながら、やけどしそうなコンクリートをとことこ歩いてくる姿を見て心がぎゅっとなり「あなたうちの子になる？お家がないならきていいよ。ごはんもあるしお水もあるよ。傷も治そう。涼しいしゆっくりできるよ」と声をかけたところ、返事は全力の「シャー！（拒否）」。猫語がわからない私にでも「うるせーんだよ！」と言われたのだけはわかりました。早く仲良くなりたいです。

（遠藤）

ウインディチャペル 溝のロキリスト教会
〒213-0033
神奈川県川崎市高津区下作延 7-11-12
TEL･FAX 044-811-3235
E-mail　mcc@windychapel.com
ホームページ　http://windychapel.com

標語：何事も恐れず、神の守りを信じて生きよう。
聖句「恐れるな。…わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」
（イザヤ41章10節）

Windy News 9月号

溝の口キリスト教会　ウインディ・ニュース
第446号（2023年8月27日発行）

7月23日（日）特別講演(堀川寛先生)での特別賛美

広島基督教会の堀川先生をお迎えして、合同礼拝と講演会が行われました。特別賛美として美しいハーモニーを響かせて、Windy Road が躍動しました。

7/23 合同礼拝&講演会

4年ぶり!開催 ようこそ堀川先生。

コロナ渦で長らくお待たせしてしまいましたが、ようやく広島基督教会(三滝グリーンチャペル)の堀川先生をお迎えすることができました。

8/20 入会式

土屋淑子(よしこ)姉が、神様の導きで当教会に加わられました。これからともに主をほめたたえる姉を歓迎いたします！ 祝福をお祈りください

7/30 仁井田先生から子どもたちに
クワガタのプレゼント

小さくてすみません